

令和2年度スポーツ団体ガバナンスコード＜中央競技団体向け＞
第3回適合性審査委員会議事録

日 時：令和3年3月8日（月）9時30分～12時30分

場 所：JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 12階 日本スポーツ協会「大会議室」

出席者：【委員】 菊地裕太郎、小林久美、松尾哲矢、松永敬子、森岡裕策、靱井圭子、
山田登志夫（敬称略）

議案1：令和2年度適合性審査（その2）について

1. 日本陸上競技連盟

総合評価：適合

【好事例】 審査項目1

ミッションとビジョン、中期（2028年）長期（2040年）の期限を設定して具体的な目標値を定めるとともに、ビジョン達成に向けた複合的なテーマ（中項目、小項目）を用意し、対象別に手法も変えながら、中高生を含む多数の関わりをもって策定を進めている。また、今後策定予定であるアクションプランの実効性にも期待したい。

【好事例】 審査項目43

加盟団体向けのインフォメーションセッションを実施し、競技運営に関する事項（コロナ禍の下での競技会開催の在り方、IFによるルール改定）のほか、組織運営に関する事項（登録料の設定、女性役員の活躍）に関しても、定期的に情報提供を行っている。

2. 日本野球連盟

総合評価：適合

要改善事項、好事例ともに無し。

3. 日本障害者スキー連盟

総合評価：適合

【好事例】 審査項目16

財政基盤強化のために、連盟においてマーケティングプログラム（3階層）を構築して、連盟及び主催大会のスポンサーシップを募集している。現在、連盟スポンサーとしてゴールドパートナー4社、オフィシャルスポンサー14社等を獲得するなど、かかる取組はガバナンス強化の好事例である。

4. 日本ブラインドマラソン協会

総合評価：適合

要改善事項、好事例ともに無し。

5. 日本車いすカーリング協会

総合評価：適合

要改善事項、好事例ともに無し。

6. 日本デフバドミントン協会

総合評価：適合

要改善事項、好事例ともに無し。

7. 日本車いすバスケットボール連盟

総合評価：適合

要改善事項、好事例ともに無し。

8. 日本 CP サッカー協会

総合評価

【要改善事項】 審査項目 35

懲罰制度が存在しないという状況は、近い将来、当該団体の組織運営に支障をきたしかねないと判断し、要改善事項として指摘する。したがって、2022年3月末日までの改善が望まれる。

【要改善事項】 審査項目 36

処分審査を行う機関が存在しないという状況は、近い将来、当該団体の組織運営に支障をきたしかねないと判断し、要改善事項として指摘する。したがって、2022年3月末日までの改善が望まれる。

9. ローンボウルズ日本

総合評価：適合

要改善事項、好事例ともに無し。

10. 全日本視覚障害者ボウリング協会

総合評価：適合

【要改善事項】 審査項目 35

懲罰制度が存在しないという状況は、近い将来、当該団体の組織運営に支障をきたしかね

ないと判断し、要改善事項として指摘する。したがって、2022年3月末日までの改善が望まれる。

【要改善事項】 審査項目 36

処分審査を行う機関が存在しないという状況は、近い将来、当該団体の組織運営に支障をきたしかねないと判断し、要改善事項として指摘する。したがって、2022年3月末日までの改善が望まれる。

1 1. 日本身体障がい者水泳連盟

総合評価：適合

【好事例】 審査項目 1

過去の事業実績や現況の分析を踏まえ、今後の活動計画について相当程度具体的に計画している。

【好事例】 審査項目 2

過去の事業実績や現況の分析を踏まえ、今後の人材の採用や育成について、具体的目標値を掲げながら相当程度具体的に計画している。

【好事例】 審査項目 6

ガバナンスコード適用以前からアスリート委員会を設置し、定期的を開催されていることや、一定の要件を満たす理事をアスリート委員として配置し、アスリート委員会の意見を適切に理事会に上程する仕組みを整備している。

1 2. 日本パラアイスホッケー協会

総合評価：適合

要改善事項、好事例ともに無し。

1 3. 日本障害者セーリング協会

総合評価：不適合

F評価となる審査項目(No.15、19～23、25、29、31、34)のほか、以下の審査項目について要改善事項があると判断した。

要改善事項となる審査項目：No.1～4、7～10、12～14

1 4. 日本デフ陸上競技協会

総合評価：適合

【好事例】 審査項目 16

他団体においてはスポンサーシップに関する規程を必ずしも整備していない中で、先進

的に規程整備に取り組んでおり、好事例に相当する。

前回からの継続審議

全日本テコンドー協会

総合評価：適合

審査項目 10 について、役員候補者選考委員会が独立した諮問機関であるという自己説明が不足し追記を依頼していた箇所について確認し、承認。

全日本柔道連盟

予備調査終了時点から審査委員会開催日までの間に、全日本柔道連盟へ事実確認を行う必要がある事案が生じたため、3月1日の委員会では審査を留保していたが、本日までに全ての事実確認が終了しなかったため、再度別日程で審査委員会を開催することとした。

令和 3年 5月 7日

議事録署名；

菊地 裕太郎

